

平成29年度 建設常任委員会管内視察の概要

- 視察日 平成29年5月15日(月)
- 視察者 建設常任委員(6名)
 淵上陽一(委員長)、内野幸喜(副委員長)
 坂田孝志、森 浩二、松村秀逸、大平雄一

- 視察先
- (1)益城町(県道熊本高森線)
 - (2)益城町(テクノ仮設団地)
 - (3)南阿蘇村(阿蘇大橋地区)
 - (4)南阿蘇村立野ダム建設予定地周辺

- 視察趣旨 「平成28年熊本地震」による災害現場等の復旧・復興状況等を視察し、併せて関係者と意見交換を行うことにより、今後の委員会審議の参考とするため。

■視察の概要

(1)益城町(県道熊本高森線)

益城町総合体育館において、県道熊本高森線の改良計画について、都市計画課から以下の説明を受け、今後の対応等について、関係者と意見交換を行った。

①都市の骨格を形成する道路として、円滑な交通の確保が必要。将来交通量が12,000台～20,800台/日であり、2車線の交通量を超過している。

②沿線は、歩道未整備または幅員狭小区間が多く、沿線周辺には小中学校が立地し、多くの児童・生徒が通行しており、安全の確保が難しい。

③緊急輸送道路となっているが、熊本地震により沿線の家屋が倒壊し、道路を塞いだため、避難や支援、復旧活動に支障が生じた。

④益城町復興計画において、町の中心軸と位置づけられており、益城町が目指す復興まちづくり像を実現するために必要な事業である。



(2)益城町(テクノ仮設団地)

仮設住宅及びみんなの家の状況等について、住宅課から以下の説明を受け、今後の対応等について、関係者と意見交換を行った。

①これまでの過密な住戸配置を見直し、住環境の向上とコミュニティの形成に配慮した



「あたたかさ」「ゆとり」「ふれあい」のある仮設団地とした。

②敷地面積、隣棟間隔、みんなの家や駐車場の配置、木製ベンチの設置など、従来よりもゆったりとした配置計画とした。

③県産木材や県産畳表の使用など熊本の気候等を考慮した仕様とするとともに、段差の解消など高齢者等にも配慮した。

(3)南阿蘇村（阿蘇大橋地区）

国土交通省九州地方整備局の関係者から以下の復旧・復興状況について説明を受けた。

①阿蘇大橋地区では、H28.5月に工事着手し、この間、無人化施工により工事用道路、土留盛土の造成や崩壊箇所頭部に残る不安定土砂の除去を行ってきた。

②12月26日に、検討委員による斜面下部の安全施工に係る作業環境現地確認を実施し、有人作業に必要な対策が講じられていることが確認された。

③斜面下部において、H29.1月から有人作業による調査等が可能となり、交通インフラ等の復旧に向けた次のステップに進むことができるようになった。

④長陽大橋ルートについては、来年夏を目標に、応急復旧による開通を目指す。



(4)南阿蘇村（立野ダム建設予定地周辺）

国土交通省九州地方整備局の関係者から以下の復旧・復興状況について説明を受けた。

①熊本地震後もダム基礎岩盤の性状に変化は認められず、ダム建設のための安全性に問題はないと考えられる。

②熊本地震後の状況を踏まえても、放流孔内に流木が固定化されるような閉塞が生じることはなく、洪水調節能力にも影響はないと考えられる。

③熊本地震の発生により、ダムサイト周辺では、表層の土砂や石のはがれ落ちはあるが、大規模な崩落は発生していない。

④立野ダムの周辺状況等について理解を深めていただくための様々な取り組みを実施。

⑤崩落土砂は白川河道に堆積しており、堆積土砂除去対策の一環として、上流の事業区域内に土砂捕捉施設を設置し、適宜、土砂の撤去を実施。

